令和4年度　大田区立志茂田学校　自己評価　報告書

令和5年2月15日

○　本校の概要

〈出身小学校〉 ※在籍人数順　①志茂田小　②新宿小　③西六郷小　④道塚小　⑤仲六郷小　⑥高畑小　⑦蒲田小　⑧相生小　⑨東六郷　⑩矢口東小　⑨おなづか小　他
〈学級数・生徒数〉 通常級　15学級（各学年5学級）、特別支援学級　4学級）　全校599名（令和5年1月19日現在）
〈生徒の様子〉
○校内に活気があり、何事にも一生懸命に取り組む姿勢がある。素直な気持ちの生徒が多い。 ○日々の授業に対する態度は真面目である。家庭学習や復習については個人差がある。 ○学校行事に対する思い入れが熱い生徒が多く、団結・協力して一生懸命に取り組む生徒が多い。
〈地域の様子〉
○大規模な繁華街に隣接しているが、本校の地域は静かで大変落ち着いた住宅地である。 ○地元愛が深く、地域力がとても強力である。 ○保護者・地域は、学校に理解を示し、大変協力的で様々な面で支援してくれる。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価		学校関係者記入欄 評価	学校関係者記入欄 人数	学校関係者記入欄 コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	〈年度末に保護者及び生徒対象のアンケート調査を実施〉 4:コミュニケーション能力、情報活用能力に関する肯定的な回答が80%以上 3:コミュニケーション能力、情報活用能力に関する肯定的な回答が70%以上 2:コミュニケーション能力、情報活用能力に関する肯定的な回答が60%以上 1:コミュニケーション能力、情報活用能力に関する肯定的な回答が60%未満	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	目指す学校像「生徒一人一人の個性を開花する学校　～毎日通うのが楽しくなる、明日も行きたくなる～」を保護者会等で保護者、教員、生徒へ周知した。また、人権尊重の理念を基にした教育活動を全教育活動において推進した。 学校評価アンケートの「コミュニケーション能力、情報活用能力」等に係る項目では、肯定的評価は生徒、保護者ともに8割以上だった。これは、昨年度とほぼ同様の結果だった。 今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、ほぼ例年同様の運動会等の学校・学年行事が実施できた。 また、教育活動の様々な場面で、タブレット端末を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図りながら、生徒一人一人に合った多様かつ柔軟性のある指導を行い、多様な考えを持つ仲間とともに協働的に課題解決を図ることのできる力の育成ができた。 今後は、GIGAスクール構想の具現化へ向けて、ハード面ではタブレット端末の適正な管理と運用を行う。また、ソフト面では、教員へのICT活用研修機会のさらなる充実とICT推進リーダー等を中心に、活用事例を参考としながら、授業等での多様なアプリの活用促進を図る。 課題としては、学習指導要領を遵守した教育活動推進を図るために、ICT活用推進及び授業改善推進リーダー等によるプロジェクトチームを中心に、校内研修の活性化へ取り組む必要がある。	A	7	コミュニケーション能力・正しい情報活用能力・人権尊重教育の育成に努めて頂きたいです。 ①PTA活動の新潮流、②生徒部活動の「地域移行・地域連携」、③不登校生徒増加など、少子高齢化を背景として日本中で課題となっているかと存じます。本校も例外ではないと存じます。 コロナ禍で変更せざるを得なかった事など多々あったと思います。目指す学校像「生徒一人1人の個性～」など学校としての原点であり、全ての始まりの様に思えます。学力・友情・社会性・自己肯定感などもその一つであると思います。 自己評価＝成果評価＝アンケート結果、と言うことだと思いますので、全ての項目の評価を「A」に致しました。コメントを読むと、全ての項目において「アンケートは昨年度とほぼ同様の結果」とあり、高い評価を維持しているので、学校の取り組みが実を結んでいる証だと思います。ありがとうございます。志茂田中学校であれば、学力や体力についても「評価4」に出来ると思いますので、引き続き取り組みの徹底をお願い致します。
									B		
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3							
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4					C		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4							
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					D		
		1人一台タブレット端末やパソコン等のICT機器を効果的に活用し、生徒の情報活用能力を育成する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4							
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	〈年度末に生徒及び保護者対象の学習に関するアンケート調査を実施〉 4:学習に対する意欲・関心に関する質問項目において、肯定的な回答が80%以上 3:学習に対する意欲・関心に関する質問項目において、肯定的な回答が70%以上 2:学習に対する意欲・関心に関する質問項目において、肯定的な回答が60%以上 1:学習に対する意欲・関心に関する質問項目において、肯定的な回答が60%未満	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	3	三者面談時等で、各授業での学びの様子も踏まえて、生徒一人一人に合った学び方を指南する「学習カウンセリング」を実施した。大田区学習効果測定の平均正答率は昨年度とほぼ同様の結果だった。授業以外での自主的な学習については、定期考査や各種検定前の補習教室において、熱心に取り組む生徒が多かった。授業改善に関しては、生徒対象の授業アンケート等を実施し、各教科で結果を分析し、授業改善プランを作成した。また、本プランを基に「主体的に学習に取り組む態度」の育成に関して、教科を越えて教員同士が学び合う校内研修を実施した。 生徒の学校評価アンケートの「学習支援」等に係る項目では、保護者及び生徒ともに7割以上が肯定的評価で、昨年度とほぼ同様の結果だった。 今後とも、タブレット端末を活用した家庭学習の支援、補充教室の実施、教科横断的な視点での授業改善を進め、指導と評価の一体化を図っていく。	A	7	先生方のチームワークと熱心なご指導で生徒の豊かな心が育まれ、学力が一層向上していくことを期待しています。 今年度の自己評価をもとに、今後の改善策が生かされ、次年度のご指導へと充実が図られますよう願います。
									B		
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	4					C		
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4							
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4					D		
		保護者と連携した英語検定等や小テスト、単元テストなどのスモールステップの確認テストを実施する等して、目標を持った学習の機会を増やし、学習への意欲を高める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4							
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	〈年度末に生徒及び保護者対象の生活に関するアンケート調査を実施〉 4:自己肯定感に関する質問項目において、肯定的な回答が80%以上 3:自己肯定感に関する質問項目において、肯定的な回答が70%以上 2:自己肯定感に関する質問項目において、肯定的な回答が60%以上 1:自己肯定感に関する質問項目において、肯定的な回答が60%未満	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	年度当初に1年生にはスクールカウンセラーによる全員面談、全校対象の生活アンケート、学校生活調査・学級集団調査（Web QU）を、また2ヶ月に1回「いじめ・悩みアンケート」を朝学活等にタブレット端末を使って実施し、課題の早期発見、即時対応に努めることができた。また、毎日の「一行日記」の取り組みを通じ、生徒一人一人の良さを見付け、成長を支えることで、生徒自身の自己肯定感向上を支援できた。 学校評価アンケートの「自己肯定感」等に係る項目では、保護者及び生徒ともに8割が肯定的評価で、昨年度とほぼ同様の結果だった。 長引くコロナ禍での学校生活等の現状を踏まえて、ICT活用推進委員会等を中心に、タブレット端末活用を促進し、より一層、日常の相談活動を充実させていきたい。 学校全体での道徳教育の充実や登校支援コーディネーターを中心とした支援機会の充実に努めたが、不登校傾向等にある生徒へのさらなる支援策を確立していきたい。 今後とも、関連諸機関との連携により、より実践的な研修を取り入れ、多様な生徒のコロナ禍での心の健康を守る取組の充実に努め、いじめの未然防止や早期発見、早期対応等における教員の実践力を高めていきたい。	A	7	心の問題はデリケートです。生活や勉強にもつながる大切なものです。いじめに限らず、問題が生起した場合でも、生徒の主体性を重んじ、「未然防止」等で解決していくという仕組みはとても良いと思います。
									B		
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4							
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					C		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4					D		
		校内委員会、生活指導部会を毎週開催する他、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の心理や福祉の専門家を効果的に活用し、生徒理解を深化する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4							
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	〈年度末に生徒及び保護者対象の生活に関するアンケート調査を実施〉 4:健康・体力の保持・増進についての質問項目において、肯定的な回答が80%以上 3:健康・体力の保持・増進に関する項目において、肯定的な回答が70%以上 2:健康・体力にの保持・増進関する項目において、肯定的な回答が60%以上 1:健康・体力にの保持・増進関する項目において、肯定的な回答が60%未満	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	3	規則正しい生活習慣の確立へ向けて、「早寝・早起き・朝ごはん」チェックシート、タブレット端末を活用した健康チェック表の活用、保健委員会による睡眠の重要さに関する発表等、 このような取組等を通して、生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行った。 また、保健体育科の授業や部活動等で、スポーツに親しむ態度の育成を図った。 学校評価アンケートの「健康・体力の保持・増進」等に係る肯定的回答の割合は、保護者及び生徒ともに7割以上だった。昨年度とほぼ同様の結果だった。 体力向上については、体育の授業や休み時間、部活動等で体力向上を目指して効果的に身体を動かす機会や場の設定をしていく。 今後は、タブレット端末等を活用して、保護者と共同で、生徒が自発的に健康チェック表等に取り組み、規則正しい生活習慣を獲得できるように支援していく。また、給食だより等による食育や、「早寝・早起き・朝ごはん」の取組の充実を図っていく。	A	7	コロナ禍、運動週間・生活リズム（早寝、早起き、朝ご飯）は家庭と学校が一体となり取り組むという事は非常に大切です。
									B		
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					C		
		東京2020大会を契機に、フライングディスク等の1校1取組を継続する等、スポーツの楽しさを体感させる機会を増やす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3					D		
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	〈年度末に生徒及び保護者対象の学習に関するアンケート調査を実施〉 4:授業内容の理解度に関する質問項目において、肯定的な回答が80%以上 3:授業内容の理解度に関する質問項目において、肯定的な回答が70%以上 2:授業内容の理解度に関する質問項目において、肯定的な回答が60%以上 1:授業内容の理解度に関する質問項目において、肯定的な回答が60%未満	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	生徒対象の授業アンケート等を実施し、教科部会等で日常的に信頼される適正な評価・評定に関する研修を実施した。若手教員の授業力向上を目的とした授業改善セミナーでは、主任教諭から若手教員のOJTを実施し、実践的な教科指導力を磨くことができた。また、研修担当教員等を中心に、大田区教育推進校研究発表会等を参観し、他の教員への還元研修を実施した。生徒理解の一環として、特別支援教育における教員の資質向上を図るため、週に一度の生活指導部会や校内委員会等を実施し、配慮を要する生徒への具体的な支援に関して情報共有し、関連機関とともに心身の支援をした。 学校評価アンケートの「授業内容の理解度」への肯定的回答は保護者及び生徒は8割だった。昨年度とほぼ同様の結果だった。 今後とも様々な研修の機会を生かして、生徒の教育環境の充実を図る。	A	7	生徒が安全、安心に学校生活を送る為に教職員も指導力向上に努め、研修等で得た知識を校内研修で充実させ、チーム志茂田として常に報連相を忘れずに対応して下さることをお願いします。
									B		
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4							
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					C		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4							
		生徒による授業評価を含む教員の指導や学校生活等に係る評価の機会を設け、教職員の指導改善に積極的に取り入れる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4					D		
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	〈年度末に生徒及び保護者対象のアンケート調査を実施〉 4:学校に対する満足度（活動状況公開・家庭学習支援・地域との連携等）に関する質問項目において、肯定的な回答が80%以上 3:学校に対する満足度（活動状況公開・家庭学習支援・地域との連携等）に関する質問項目において、肯定的な回答が70%以上 2:学校に対する満足度（活動状況公開・家庭学習支援・地域との連携等）に関する質問項目において、肯定的な回答が60%以上 1:学校に対する満足度（活動状況公開・家庭学習支援・地域との連携等）に関する質問項目において、肯定的な回答が60%未満	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	地域と連携した行事やボランティア活動に関しては、感染症対策の観点から中止や実施形態の変更等を行った。 学校評価アンケートの「学校に対する満足度（活動状況公開・家庭学習支援・地域との連携等）」への肯定的回答は教員は10割、保護者及び生徒は8割で、昨年度とほぼ同様の結果だった。 今後も、毎週の「学年だより」、毎月の「学校だより」を発行し、保護者からの意見等を取り入れながら、教育活動の充実に努める。 本年度も感染症対策として、事業所等での職場体験と職業講話を実施した。 今後とも学校での教育活動公開の充実を図るとともに、生徒が地域の一員としての自覚を持ち、学校などでの学びを地域の課題解決へとつなげていくことができる子供の育成を図る。	A	7	防災訓練等で感じた事は、小学6年と中学1年では、一挙に大人になると感じました。学校だよりを町会に配布される等、積極的な情報発信をしています。 地域としても、学校と連携してよりよい関係になれたらと思っています。
									B		
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4							
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					C		
		全校で組織的な家庭学習への取組を行い、個に応じた家庭環境も視野に入れ、生徒に家庭学習の習慣を身に付けさせる。	4:全学級で行った。 3:80%以上の学級で行った。 2:60%以上の学級で行った。 1:取り組んだ学級は60%未満であった。	4							
		学年便りを毎週発行し、学校の様子を保護者に伝えるとともに、保護者からの意見等を把握し、学校運営に反映させる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					D		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。